

「笑顔の会」政策資料②(2023年1月14日号)

コロナ感染急増の中で、死者数と救急搬送困難事例の激増。ながたさんの政策実現で、医療機関の支援と診療体制の強化を

●コロナ感染者、12月に急増。死者数も急増

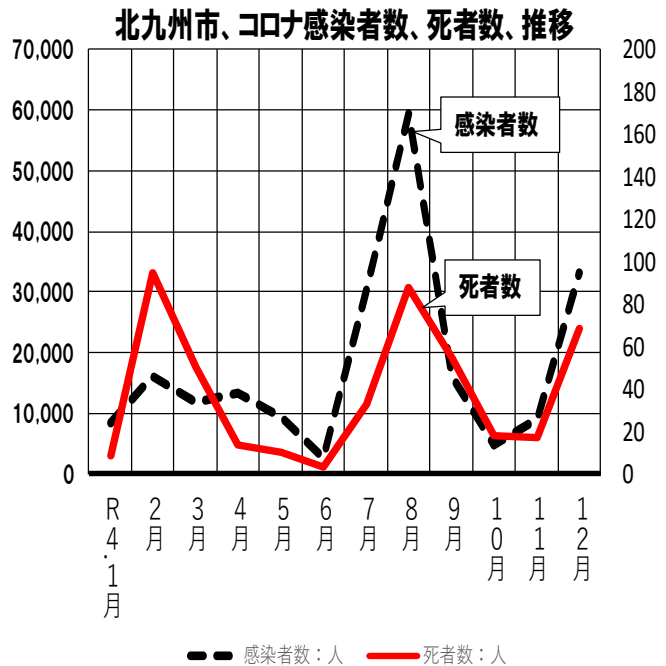
コロナ感染が急増し、死者数も増加しています。現在、夏の7期を上回るペースで進行しつつあります。

●救急搬送困難事例も1週間で2倍に

コロナ感染の激増により、北九州市でも、救急搬送困難事例(※)が激増しています。

「今週」(R5.1/2(月)～R5.1/8(日)分)では、件数で、「前週」((R4.12/26(月)～R5.1/1(日)分)の2・1倍、昨年同月比の約40倍になっています。急増ぶりは、全国を大きく上回っています。

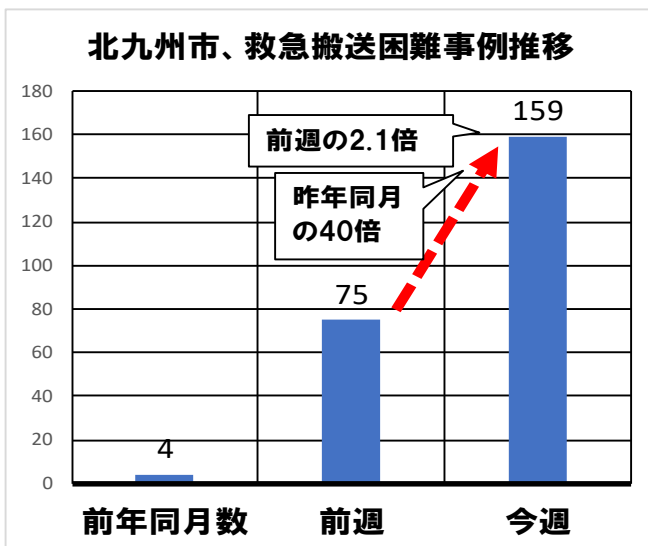
この事案のうち、「コロナ疑い」は半数を超えており、この比率も、上回っています。



北九州市のコロナ感染者数と死者数の推移

	月	感染者数: 人	死者数: 人	死亡比率
R4	R4.1月	8,565	9	0.105
	2月	16,073	95	0.591
	3月	11,902	50	0.420
	4月	13,234	14	0.106
	5月	9,481	10	0.105
	6月	2,692	3	0.111
	7月	30,306	33	0.109
	8月	59,460	88	0.148
	9月	16,158	55	0.340
	10月	4,862	18	0.370
	11月	9,159	17	0.186
	12月	33,126	69	0.208
R5	R5.1月	15,026	40	0.266

(※1月10日までの数)



●「医療崩壊」が現実になっている

この「救急搬送困難事例」の急増は、医療機関での受け入れが困難になっていることの裏返しです。

非公開の資料では、市内にはコロナ患者受け入れ可能な医療機関は 24 カ所ありますが、そのうち、17 カ所で、ベッド数が満床か、体制がとれないために、受け入れ困難になるなどの「医療崩壊」起こっています。

救急搬送困難事例の変化					
	実数			前週との比較	前年同月との比較
	今週	前週	前年同月比		
北九州市	159	75	4	2.12	39.8
うちコロナ疑い	80	46			
コロナ疑いの比率	0.50	0.61			
全国	7,558	7,158	2,885	1.06	2.6
うちコロナ疑い	2,612	2,311			
コロナ疑いの比率	0.35	0.32			

●医療機関を支援し、体制の強化を

対策としては、医療機関の体制強化以外にはありません。公的助成を強め、体制強化を急ぐ必要があります。

(※：救急搬送困難事案とは・・・救急隊による「医療機関への受入れ照会回数 4 回以上」かつ「現場滞在時間 30 分以上」の事案として、各消防本部から総務省消防庁あて報告のあったものとしている。なお、「これらのうち、医療機関への搬送ができなかった事案はない」(総務省、消防庁)との報告です。